

第73号
2009年
9月6日

梅鶯仙壯親睦旅行

中止

恒例の研修親睦旅行を9月19・20日に予定していましたが、残念ながら諸般の事情により本年度は中止とさせていただきます。

朝は「おはよう」の挨拶をしよう。
夜は「お休み」の挨拶をしよう。

「ありがとう」

「すみません」

「ごくろうさま」の愛語を

和顔で、たがいにかけ合おう。

もつと多く、惜しみなく

かけ合う。

寺川幽響先生

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

仏壮例会での「正信偈を味わう」も、親鸞さまが七高僧さまについて詠まれているわゆる依釈段と呼ばれる後半部分に入りました。

そこで本欄では、その七人の各高僧さまがお釈迦様が亡くなられてからどれ位の年数が経ち、どの年代の方々なのかを表にしました。参考にして下さい。

現代	親鸞聖人	法然上人	源信僧都	善導大師	道綽禪師	曇鸞大師	天親菩薩	龍樹菩薩	お釈迦様
	日本	日本	日本	中国	中国	中国	インド	インド	インド
2009年	1173年	1133年	942年	613年	562年	476年	4世紀頃	150年	紀元前463年
	1263年	1212年	1017年	681年	645年	542年	5世紀頃	250年	紀元前383年
約2400年	約1600年	約1600年	約1400年	約1000年	約1000年	約900年	約800年	約500年	お釈迦様滅後
末法			像法				正法		

ところ、仏教にはお釈迦様の入滅後の期間を大きく三つに分ける「三時思想」という考え方があります。

まず最初は、お釈迦様が入滅されてからの約500年の間を、正しい教えも、正しく修行される人も、悟りを得る人もあるという時代で「正法の時代」と呼びます。

つぎに正法後の約1000年間は、正しい教えも正しく修行される人もあるが、悟りを得る人はなくなる時代として「像法の時代」と呼びます。

そして像法後の約1万年間は、教えだけは残るが、正しく修行する人も悟りを得る人もなくなる時代として「末法の時代」と呼びます。

年表で分かるとおり、親鸞聖人の時代がちょうど末法時代の始まりに当たりますが、親鸞聖人は「三時」を通じて間違はなく衆生が救われる教えこそが、阿弥陀さまのご本願による南無阿弥陀仏の教えであると悦ばれたのです。

この無財の七施には、お

金や財物や衣食などの物を
を必要としません。ものが

る世界です。ご飯と煮野菜の一品だけという福建省の若者の食事が、あれだけ豊かに見えたのは、食事を施す側の先生の暖かい心持ちがそうさせたのであり、まさに「無財の七施」によるものだったのでしょう。

食事を乏しくするのも豊かにするのでも、その食事を施す側と施される側の心の持ち方に起因するものなのです。

○「和顔愛語」

金品の値打ちや、ものが多い少ないで人の幸せが決まると錯覚しがちな現代社会ですが、やはり人間が豊かで優しい心になれるのは、相手の和やかな顔「和顔」であり、優しい言葉「愛語」であるということです。を改めて学ばさせて頂きました。

法輪寺孟蘭盆会
住職法話より

